

令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部  
鹿児島県知事 最優秀賞

「 災害から学ぶ 」

鹿児島県 喜界町立喜界中学校 2年 瀨井 友里

土砂災害、最近この言葉をよく耳にするようになった。テレビでは連日のように大雨による被害の様子が映し出されている。大雨により河川が氾濫し、道路や住宅が浸水し、ひどいところでは家の二階まで水が迫り、あたり一面が濁流に覆われていた。

私が住んでいる喜界島でも、2017年9月に「50年に一度の大雨」と言われる豪雨に見舞われた。私は当時5年生だった。その日は普段通り学校に行きいつもと変わらない日常を過ごすはずだった。

午後から雨がひどくなり、今まで見たこともないような大粒の雨が降り続き「ザーザー」というものすごい大きな雨音で授業をしている先生の声が聞こえない。「これは、いつもの雨と違う」心の中でそう思った。教室の窓の外を見ると校庭が、水でどんどん溢れていく。

下校の時間になり私たちは親が迎えに来るまで教室で待機することになった。待っている間も雨はさらに酷くなり窓から見える景色もひどくなっていった。道路に水がたまり、動けない車が見えた。

しばらくすると、親が次々と迎えに来た。友達がどんどん帰っていく。教室のドアをじっと見つめ、「早く迎えに来て」ずっと心の中で思っていた。教室にはほとんど子供がいなくなり、だんだん心細くなってきた。教室のドアに父の姿を見つけた時は本当に安心した。家に帰ると兄や姉も帰って来ていたのでほっとした。

仕事に行っていた母だけがまだ帰って来ることができず、夕方電話で

「今から帰るからね、大丈夫だからね」

と母の声を聞いた時は「無事で良かった」と安心した。

かなり時間が経った頃やっと母が帰ってきた。普段通っている道が浸水していて、通れそうな道を探しながらやっと家にたどり着いたようだ。雨で車からの視界も悪く歩くような速度で、側溝に落ちないように必死でハンドルを握って帰ってきた。本当に怖かったと話していた。

翌日、ニュースで喜界島の大雨による被害の様子が映し出され初めて、町がこんなにひどい状態になっていたことを知った。1時間に約120ミリの猛烈な雨が降り、降り始めからの総雨量は、平年の9月ひと月分の3倍を超える雨量だそうだ。複数箇所土砂崩れも発生し道路が通行止めとなった。

喜界島は毎年台風が来るので、大雨や暴風、停電への対策はみんなわかっているのも事前に備えることができる。でも今回のような突然の大雨には対応することができなかった。運良く無事に家に帰ることができたがもしかしら、命の危険にもさらされていたかもしれない。特に土砂災害が起こると家が押しつぶされたり、道路が通行できなくなり、救助に行きたくても前に進めないという事態が起こる。

日本のおよそ70パーセントの地域が山地や丘陵地で土砂災害が発生しやすいと以前社会の授業で習った。また、崩れた土砂が川に流れ込み、川が土砂によってせき止められると、その上部が浸水被害を受けるそうだ。土砂災害がどれほど深刻な問題を引き起こすのかがよくわかる。

今回の自分自身の経験から学んだことは、日頃から災害に備えておくということだ。ハザードマップを用いて、自宅や避難所、地域の危険なところを確認しておくことがとても大切だ。また避難グッズをそろえたり、家族や親戚の連絡先をメモしておくことも大切だと思う。そしてもっとも大切な事は早めの避難だと思う。まだまだ大丈夫だと思って避難が遅れた人が家に取り残されたり、流されたり、大変な被害にあっている。

今はたくさん情報が入る社会だ。自分自身でもっと災害について調べ学んで、災害時正しい行動がとれるようにしたい。